

【別添2】(様式例2)

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校定時制課程 学校番号 5809

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> 豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、課題解決のため周囲と共同できる生徒 互いの人格を尊重し、意見を交流しながら、自らの役割と責任感を果たせる生徒 郷土を愛し、地域の発展のために、地域や社会の構成員として貢献できる生徒 	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> 課題の発見、解決能力を伸長するための「主体的・対話的で深い学び」・「探究的な学び」の推進 ICTを積極活用した教科指導・探究的な学びでの、コミュニケーション能力と情報発信力の育成 生徒の個性や長所、自己肯定感を伸長するためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施 	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> 向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 生徒会活動や学校行事などに自主的、主体的に参加しより良い学校や人間関係を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 学習指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <生徒>本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。 (肯定的評価97.3%) <保護者>学校はICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようとしている。 (肯定的評価は89.7%) 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を大切にして、社会人として必要な一般教養を身に付けさせる。 主体的な学びへとつながる「分かる授業」を推進するとともに、個に応じた支援を充実させる。 		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導委員会等で目標と取組内容を明確にし、教務部が中心となって全教員で推進する。 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組 (1) プリントやICTの活用等による授業づくり (2) 対話の充実と授業規律の確立 (3) TT、習熟度別等による個別の支援	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 生徒及び保護者を対象とするアンケート (2) 生徒による授業評価アンケート (3) 定期考査ごとの各科目の平均点及び得点分布		
9 取組状況・実践内容等 <ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用と、生徒のICT活用機会の増進に努め、生徒が興味関心をもって臨める授業を心がけた。 「授業のルールとマナー」を示し、対話を大切にしながら主体的な学びを推進するとともに、授業規律の確立を図った。 多くの教科でTT、習熟度別、少人数授業のいずれかによって個別の支援を徹底し、「分かる授業」の実践と学力の伸長、基礎基本の定着を図った。 	10 評価視点 ① 基礎的な内容の確実な定着が図れたか。 ② 主体的な学習姿勢は身についたか。 ③ 「分かる授業」作りに努め、個に応じた支援ができたか。	11 評価 A (B) C D (A) B C D (A) B C D	

<p>12 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○今年度は新たに、プリントの書体を「UDデジタル教科書体」に統一する取組を行った。ICTの活用やTT等の個別支援と合わせて、より一層「分かる授業」の実践に努めることができた。12月に生徒を対象に実施した授業評価アンケートにおいても、「授業は楽しいか」「分かりやすいか」といった内容の質問に対して、95%以上の生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>○授業内での個別の支援だけでなく、始業前や放課後の時間等も活用して学習支援を行うことができた。また、教員間での情報共有を綿密に行い、より個に応じた支援に努めることができた。</p> <p>▲授業評価アンケートにおいて、「ICTを活用した授業が行われているか」という質問に関しては、肯定的な回答が85%に留まった。高い数値ではあるが、今後はより多様な活用方法を模索していきたい。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科間でのICT活用実態を共有することで、様々な活用方法について検討する機会を設ける。また、各活用実践における生徒の意見を回収し、困り感に対応することで、ICTの活用を「分かる授業」に結び付ける。 ・生徒に関する情報共有を今後も徹底し、より効果的に個に応じた支援を行う。個別の支援計画等の活用や特別教育支援員、外国人生徒適応指導員との協力、保護者や外部機関との連携など、組織としての支援体制を充実させる。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍も明けたので、これまでできなかったことをやってほしい。 ・地元、高山の魅力を知り、高校を卒業して外に出た時に、それらを話せるようになってほしい。 ・学習に対する生徒の姿勢はとて良くなっている。 ・ICTやネット環境をうまく活用し、全日制、定時制、通信制の交流や中学生や一般の方への情報発信を行ってほしい。
